六・八、P1、P2のコル

(五〇

(3頁へ続く)

ホワイト・ピヤズ群の左端

東側の窓に向う、四六三四mにビバCⅠ(四二○○m、六・六)、六・七

の末端、三五〇〇m)。 口、マイダン。BC(六・11)、 担夫22名、計30名)。 第308号 昭和46年2月10日発行

### B 岐阜岳連隊 スワット

(21)、中原良材(28)。 都竹勝(隊長、 岩佐善弘(23)、 38 日比野治美 筋田雅則

活動区域、(地図参照)、ガプラル本谷 往路経由地、四・四(先発隊)、 ラチ。五・一五(カラチ、ラワルピ 二(カラーム)二五(ウトロール、 ガブラル)。 ディ)五・二一(ピンディ発)、 五・三 (本隊)、 羽田、カ

登攀活動、五・三一、キャラバン開始ツージ経由、チトラルにでる。

、隊員5名、

通訳1名、警官2名、

ハラハリ谷入

氷河

谷からツル・ラスプールに出、 の源頭付近。登山のあと、カチカニ

マス

羽田着(七・

クラクマリー(クラボート氷河のみ

りカチカニ峠(四七六六m)とマナリ

ことは賞讃に値する。 上にある未知の、しかも急峻なコルを を行ない、完壁な三六〇度写真をとっ 育大学隊が残した部分で一つの初登頂 トの奥地に入り、一九六七年に京都教 不備な点のあったことは遺感である。 て貴重な資料を齎らした。 その上、チトラルとスワットの州境 事に越え、新らしい部分を開拓した

六・二 り、四二四六m(カチカニ氷河上) 六・二五、ソル・ラスプール。 六・二四、 六・二二、全員コルを越え雪壁を下 P2 (五五〇〇m) 一〇・四〇着。 六・二一、岩佐、中原C2発四時 二六、 ペシャワール、ピンディ、カ チトラル、ロワライ峠、 九、С2 (四七〇〇m) チトラル。 マスツージ。 泊地(三二三〇m)。 ディ

本隊は五名という小数部隊でスワッ

手紙は結局一本も日本につかず。 二〇〇本の

活動地域、カーブル、ブニ・ 有本朋子(隊長33)、 田村幸子 32 竹上邦子

往路、横浜(6・5)、ソ連経由カー 指そうとしたが、治安の不安で予定 ム谷へ入る。 ル、マスツージ、ラーマン、 チトラル(6・24)、ブニ、 m)の東30 kmにある五〇八七mを目 シャー・フラディ (五一四三 ソノゴー ラルとスワットの州境をなす山脈にあ 山。登路は裏側である。この山はチト O E)° 九六八年に英国隊の一つが初登した一番右の白い高いのが五八七一m。

7・5)、隊長変調下山、田村に付き パルガム(7・15)、ソール・ラスプ 竹上、黒田ラスプール河遡行。 添われチトラルへ戻る。 本の滝で手がつけられず、 口、6・29)、五〇〇mの岩壁と二 ・ル、カチカニ谷出合、タロー(バ BC (五二〇〇m、 タロー谷遡行、タロー・ ・ル(ゴルドハン氷河の入 マナリ谷出合 同氷河上 戻ってデ 方が適切のように思う。この山は写真 ると、ハラハリ峰の名はこれにつけた 峰に迫った京都教育大隊の事実を考え リ谷を遡って州境上にある五六三九m でいる。しかし、一九六七年にハラハ 命名したが、英国隊はハラハリと呼ん 峠(四九二一m)の間では最高の峰で 岐阜隊はこれをホワイト・ピアズと

# 富山女性踏査

南東を望んだもの (下図)

六m、双峰であることがよくわかる)。 ラク・サール(五九一八m 中央の左に大きく高いのはミアング 中央の近い屋根形の峰はP3 目前の谷はガブラール本谷。 左の遠くに見える三角椎の山はファ パール、五九九

ワット、コー・イ・ババ。

(五五〇〇m) から南西



昭和46年(1971年) 2月号(No.308)

本山岳会 (J. A. C.)

次 

スワット 
 以中田之際
 1

 富山女性踏査隊
 1

 北部スワットの地図
 2

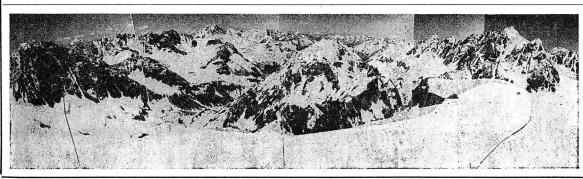
 ヒンズーラジ
 3
慶大山の会登山隊………3 ダウラギリ主峰同志社隊……… ナンガパルバット1970 ..... エベレスト登山隊残務処理報告 登山隊の解散………… 
 豆山豚の肝取

 エベレスト委員会報告

 帰国直後の公式行事

 ネバール関係者招待

 展覧会
図書室便り 図書受入報告 会務報告 1月理事評議員会…



# ◆北部スワットの地図◆

山隊には可能性の豊かにある地域の Kに比敵する愉しい山が幾つか残さ れており、これからも尚小部隊の登 つとなっている。 北部スワットには今でも、中部H

間に合うのではないかと思う。 との辺の登山記を読むにはどうにか 何とか作り上げた概念図であるが、 か解消しようと、古いものから新ら が纏めたのは、今までの不便を何と しいものの殆んど総てを参考にして なものは作られていない。ここに私 この地図を作るため資料の参考。 しかし地図としてはまだまだ正確

Pakistan, Corrected upto 1942. 43A", Surveyor General of  $187 \sim 195$ "Alpine "Quarter Inch Map, 42 D & Journal, 1969", pp.

272, No. 287 (1969. 5)  $55 \sim 59$ . "ÖAZ", Folge 1345 (1966), 1362 "Himalayan Journal, 1969", pp "「山」", No. 271 (1968. 1), No

"HK 富山女性踏査隊 1970 年特别 "ヒマラヤ遠征報告, 1970" (岐阜

rearranged by 宮森常雄, Sept 15, 報告原稿": "Hindu Kush-Hindu

Hornal Nala

あかね書房発行, 1967. 松』の意という。バハンドラ河とい ンは "小さな樹、一般には曲った赤 地図の真中にあるバハン河のバハ "Tirich Mir 登頂", 吉沢一郎訳

Gwaldal River

Lomutot

(海山塚)170、

qabral 3

Gabra!

Kalam

avinia Pk.

Sin Dara Gi

Kai Shan 5715?

2073 (2350)

Sho

Nallah

RIVET

70 nede8 3 Ethnede8) (Tebend)

Ushir Aver

Confusion

ownsolation,5181

Balin Peaks, 5700

Badwal

Utrot.

Laikot 8

Mankial |

Jabba

Swat River

Central

Ryramid

Fudding |

484

Baba-Sahib

handrai

Zhandrai

Utrot

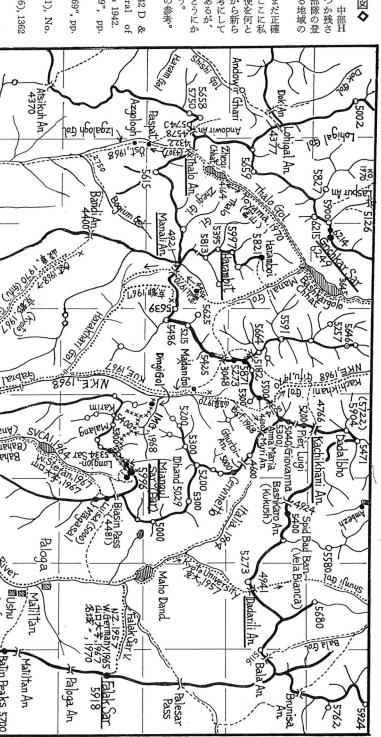
う表現はおかしいようだ。

(吉沢)

Sundrai

Kalkot 18

OX.



一日も早く出ることを期待している

(バシュカルゴロ) 湖と ハランピット峰 (奥はハランポイ峰)

らなるものであるが、その特異な隊格 な面において、可なりの成果をあげて を充分に発揮して、 前記の行動記録には現われていない この遠行踏査隊は女性のみの四名か 手に負えず、ノーム・ジョラット山 シュ、チトラル(7・30、隊長、田 (四六〇〇m)に登る(隊長、 七〇〇m)で偵察、五〇八七m峰は バミアン(8・12)、バジカク峠 (三 ィール(7・29)、ロワライ峠、ドロ ワル峠、ラムティール(7・26)、 に日本女性二名の署名あり)、 ブラール(7・23)、レスト・ハウス 上(7・22)、スワット側へ下る、ガ ーカーブルへ。 男性隊では不可能 シュガール、デ バド カ

わぬところに待伏せている。男性に近 動は絶対にしてはいけない。危険は思 い女性でも同じことである。 一国の大都会であっても、一人での行 (吉沢)

イシュポリリ峰(五九〇〇m)、 リ側から四時間)、第二登。

経由最

m)登頂(8・6、イシュポリ バシュカールゴロ峰(五四〇〇

高到達点(?)、BC。 試登(8・10)、北峰(?)、 慶応大学山の会 H·R踏査隊

合(7・20)、ハラハリ峠との分岐点 被われていた)、 戾る。 マナリ谷出

ことは洋の東西を問わないが、たとえ

女性がそれとして危険な存在である

C

ヒンズー・ラージ

(マナリ峠直下四四○○m)、峠の頂

登山活動、チトラル(7・17)、ウ 活動地域、マスツージ河の支流ゴ 攀活動、ラスプール峠の西面 シャキオクー村の上(21)。 ズゴール(18)、ロージナリ(19) クー谷源流とイシュポリリ谷。 大隊が入った)に入るシャキオ ーレン河(一九六七年に東京農 東面で大部苦労する。 船木威志(23)、久保田哲朗

照されたい。尚、五八二七mのクルイ が一つも書いてない。いずれ照会して しいようである。 ウツ峰はシャキオクー側からは一寸難 追補する。地図は近いうちにこの「山 へ出るもの(各隊の協力による)を参 (注・この仮報告書には各地点の高度 ラスプール、マスツージ、ブニ、チ (8・11~19)、イシュポリリ谷から

が、私は隊長から直接いろいろその体

験を聞いているので、総合的な報告書

Thui 1 (6660m) > Lastit R. Yarkhun M.Ikeda

れていくのはご承知の通りだが、

ていくのはご承知の通りだが、六○HRの未踏峰が毎年幾つかづつ登ら

ラシュトへ。

の見込みなくBCへ。

21

BCより

まだ沢山残されていることはご同慶の○○m以上で登り甲斐のあるのがまだ 価値のある山らしい。 であろうか。二度でも三度でも攻める もう少し大部隊で行ったらどんなもの 岩場も相当手強いらしいから、 は「岩と雪」の18号で詳しく紹介して た。天候の悪化にもよろうが、 至りである。 六九年に英国隊がⅡ峰で失敗したこと 雲表隊は三人でI峰に挑んで失敗し ツイのつく三峰も仲々手強いらしい

TASAGA Bray 1/6 6203 Shotor Gl 6523 10-10-12 6175 6660 Thui Koyo Zom Thui I Peak 6400 6889 Old ridge map

### 4000 T.ASAGA BC Shotor Gl. 4850 9 Karol Zom Ŀ Thui 6523 6175 Spot survey 6660

### 雲表倶楽部隊

隊員、浅賀隆明(25)、三好捷介。 池田雅美 (22)。 28

往路、6・15~17、ピンディから陸路 ジ 19 。 ) 21 を傭う、 チトラルへ。ペシャワールにて通訳 五〇日間で一〇〇〇ルピ。 チトラル、ブニ、マスツー

**—** 765

3) (

※登攀活動、

6

パナリロ氷河

14、四八〇〇mへ、15、ツイI峰の向う。7・1、BC(地図参照)、向う。7・1、BC(地図参照)、

北側五二〇〇mまで、19、天候回復

# 八千米峰を加えた同志社大学

拝啓、同志社大学ヒマラヤ・ドウラギ らご報告申上げます。 御蔭様にて一行一四名無事、一二月 た。厚く御礼申し上げます。 世話に成り、真に有難うございまし リ登山隊出発に際しましては種々お 一日帰国致しました。遅ればせなが

させて頂きますが、不取敢概略骨子 先ずは御礼旁々帰国のご報告を申述 のみ別紙の通りご連絡いたします。 昭和四五年一二月一二日 いずれ詳しいご報告は改めて提出 三田幸夫様 同志社大学ヒマラヤ登山隊 太田徳風

隊員、太田徳風(隊長、58)、 隊長、30)、河野吏(30)、小川允己 二(副隊長、30)、川田哲二(登攀 豊司(24)、石川博(23)、安井忠(21) 村誠夫(28)、宮川清彦(27)、和田 堀江礼二(27)、椎塚直人(29)、西 (28)、川井康男(登攀副隊長、30)、 今成征

登攀活動、BC(9・9、四四○○m) 往路、8・8(羽田)、カルカッタ、カ 二m、11・45 m、川田哲二、ラクパロ、七八〇〇m)、頂上(20、八一七 CI (16、五〇〇〇m)、C2 (20、 トマンズ、ポカラ(8・15~20)。 C5(16、七四〇〇m)、C6(AC、 m)、C4(10·13、六九〇〇m)、 五七〇〇m)、C3 (27、六三〇〇 山辻英也(大阪市大、医師、33) フレンチ・コル(27)、ツクチェ(28 ・テンジン)、BC (10・22 ~ 26)、

> 帰路、カトマンズ、伊丹空港(12·1)。 カトマンズ(15~23) €11·3)、ポカラ (11·12 €15)、

11・23記「前略ご免下さい。ご無沙汰 宛の私信を紹介しておく)、於KTM、 致しております」。 **八追って、隊員、堀江礼二君より吉沢** 

牛を上げるための道がありラッキーで まではスムーズにいきましたが、マヤ てつぶれるのではないかと心配致しま カートン・ボックスの荷物は雨に濡れ んでした。夕方六時頃より前は雨で、 又、蛭に食いつかれての行進でした。 渡渉や畑の畦道の泥の中を歩かされ、 した。しかしモンスーン中故、幾度も たため、それほどの豪雨には会いませ れることを非常に嬉しく思います。 ンディ・コーラはダ峰下へのカルカへ 往きのキャラバンはポカラよりムリ 20登頂という成果をもって日本へ帰 長年の計画であったダウラギリを10 今年はモンスーン初期に多量に降っ

語は読み書きが出来、サーダーはシェ ラブルもなく来れました。二人とも英 苦労もせず、又ポーターの賃上げのト ルパの中では今、一番ではないかと思 メントにつとめてくれ、彼と同郷のカ ラクパ・テンジンは実によくマネージ で隊員一四名、ポーターが二〇九名と ンチャ・シェルパを使って、全く何の いう大部隊になりましたが、サーダー シェルパー七名(内ローカルは六名)

設けました。ムリからは六日間かかり る地点に9・3、レスト・キャンプを 三八〇〇mの最後の芝生の生えてい

ルパ二人と私も含めて四人が流されま ている稜線にとりついたところ、シェ くのかわからず、C2より一気に登っ からみてどこからこのNE稜にとりつ というより完全なカベで、コルの広さ ターでおりたのがよくわかります。 は全く広く、スイス隊がピラトスポー あり、胸をつく急斜面でしたが、コル 下まであり、ダ峰のNE壁から雪崩が この上にまだ氷瀑があり、NEコル直

C3を クレバスの 直下に 設営 しまし メンバーをチェンジして九月二八日に で停まりました。九月二〇日、C2。 幸い表層だったので一五〇mばかり

なくされました。 スで、一からルートのつけ直しを余儀 れテントも埋れました。約一週間のロ 二張りがやっとでした。 揮しました。C4も小さなテラスで、 綱のベタ張りで、ユマールが威力を発 その後天気が悪くなり、丸二日降ら

吹き出し、寒くなり風も強くなりまし したが、己にジェット・ストリームが 設営しました。天気ももち直してきま C5は岩峰の直下で一○月一七日に ○○m、マヤンディ氷河のモレン上に 高度順化をかねて、9・6、に四四 一度だけダ峰を見たのみでし

間

BCを設営致しました。丁度「梨ルー

日雨とみぞれの中での苦しいルート工 らず、又天気も昼までしか保たず、毎 瀑の登攀にかかりましたが、全くすご ト」の下に当ります。 く何処から手をつけて良いか皆目わか これよりNEコルより落ちている氷

NE稜はここより急にせり上り、稜 氷瀑とNEコルの中間にC1を設営

ここから上は急で、C6までは固定

なっていました。 た。全くひどいところで、雪が凸凹に 下でわれわれは『鷹の巣』と呼びまし ました。丁度フォルスピークの取付直 しかし時間的制限一杯でCGを設け

せんでした。

に聳え立ち、山だという実感が湧いて で、KTMから見ていても屛風のよう たのも大きな要因となりました。 おり、それを旨くとらえることが出来 確で、シェルパ達の観天望気と合って アンデスとは比較にならぬスケール 又、ラジオ・インディアの放送も適

当地を離れるのが残念でなりません。 いたしたいと思います。 度お目にかかり、じっくりとお話し 一二月初旬に日本に帰えりますが、

ラビナも捨ててあり、彼らもやはり上 北アの鎖をとめてあるような大きなも では見られない非常に大きいもので、 だ残っており、ロック・ピトンは日本 C4から上はスイス隊のフィクスもま ようです。 部の物は持って下らず、全部放棄した て残っていました。B型の軽合金のカ ックがあり、テントもボロボロになっ C5の一寸上の岩稜にはスキーのスト ので、フィクスは麻とナイロンでした。 僅か一張りの場所しかありません。

らしきものは皆無だといっていまし か海岸にあるような岩で硬く、石ころ ーダー、ラクパ・テンジンはOcを担ぎ 一・四五頂上に立ちました。岩は何 一〇月二〇日、六時に川田隊員とサ

それほど疲労するということはありま 次の日の行動を非常にスムーズにし、 五し出し、行動中は三し使ったととに もあるようです。睡眠中のOg使用は、 C5から使い出し、寝る時は毎分○・ 登頂出来た要因としてはやはりOsを

### < Nanga Parbat, 1970 Rupal-Flanke>

共にそれは弱まっていったが、まだ多 長に対する非難が起った。時の経過と 料によってこれが解説をやってみたい 少のくすぶりはある。いずれ左記の資 方不明となり、これに端を発してH隊 ヒューファーの率いる登攀隊によって と思っている。 者兄弟の一人、ギュンターは雪崩で行 ンとショルツが同じルートで登頂した メッスナー兄弟が初登、続いてクーエ 七〇年六月二七日、遂に完登された。 のルパール壁も執拗なK・M・ヘルリ しかしディアミール側を下った初登 世界最高の壁、ナンガ・パルバット

なる。 因みに隊員を紹介すると次のように

Peter Scholz (26), Werner Haim (28), Tirol, Gerd Mändl (22), München, Reinhold Messner (25), Dr. K. Maria Herrligkoffer (54), Hans Saler (22), München, Felix Kuen (33), 28 日に登頂, Günter Messner (23), 邁難死,

"Alpine Climbing"—7/6, 1970

Alice von Hobe (30), 薬剤師,

ACG, "Der Bergsteiger"-Nov., 1970, "ÖAV, Innsbruck," Sept/Okt.,

1970, Institut für Auslands forschung", "Pressedienst der Deutsches "Deutscher Alpenverein," No. 5, "Mountain," Sept., Nov., 1970,

れは週刊グラフ誌らしい。 "Bunte," No. 31, Juli 5-1970,

"Alpinismus", 9 & 10-1970,

た。これにより、公式報告書編集等

ベレスト登山の事務所を閉鎖し、こと

### 工 ス 1 ·登山 残務処理 報告

エベレスト委員会

状況を取りまとめてご報告致します。 ます。今回ここに帰国後の残務処理の が充分でなかったことをお詫び申上げ が、その間、会報「山」誌上での報告 日帰国後、すでに半年を経過しました エベレスト登山隊は、昨年六月二十

### 登山隊の解散

六月二十日に、井上隊員を除く本隊

得ていた方針に従って荷物の整理を行 受けた地方自治体に対し、総事業の完 東京都をはじめとする補助金の交付を 省、大蔵省当局、毎日新聞社、NHK 登山隊の総収支の決算を行ない、文部 することになった。(この点は十二月 月末日をもって登山隊の全業務を終了 ない、一部の残務整理を残して、十 し十一月中旬、全貨物を無事受領した。 横浜港に入港。十一月十日通関を完了 七日カルカッタを出港、十月二十日、 商船三井船舶のビルマ丸は、九月二十 たが、ようやく荷物を積んでいた大阪 隊を解散することができずに困ってい の登山隊貨物が内地へ到着せず、登山 る港湾ストの影響を受け、五十四個口 帰国し、ここに全員が帰国した。 了報告を行ない、総収支決算書を提出 一日の理事評議員会で承認された) エベレスト委員会ではこの線に従い そこでかねてから、理事会で了承を しかしながら、カルカッタ港におけ

に登山隊は解散することになった。

# エベレスト委員会報告

される委員会である。 様の性格の組織で、45年度末まで設置 度の各小委員会(図書委員会等)と同 編成された。この委員会は、昭和45年 新たに、エベレスト(処理)委員会が 議員会において、留守本部は解散し、 帰国を前にして、六月三日の理事、評 隊本部は、エベレスト登山留守本部(本 本部の業務を遂行してきたが、登山隊 部長=加藤泰安)に組織を替え、留守 (委員会の構成) 登山隊の出発後は、エベレスト登山

従事していた井上隊員が、八月十五日 に残留し、モンスーン中の気象観測に の全員は帰国したが、現地クムジュン

四名で構成。 中島、川上、藤井、山崎、宮下以上十 山、大塚、飯野、松田、藤田、松浦、 委員長 = 三田会長、委員 = 加藤、村

45 6 . (委員会記録) (ルーム)、登山隊帰国準

備その他。

45・7・11 (ルーム)、主として経理 45・6・29 (ルーム)、エベレスト登 45・6・16 (ルーム)、エベレスト登 態の検討等を行なった。 山隊の今後の残務処理日程、 山隊帰国歓迎準備打合わせ。 、財政状

> 田会長、毎日新聞社田中会長らと共に 十六日午前十時、三田会長、NHK前

45・8・8 現地費の収支決算状況の 関係・財政状態等の検討を行なった。 ①エベレスト特別会計決算処理方法 の諸点につき検討した。 終了に伴ない、委員会を開催し、 ·12·9 エベレスト登山隊の事業 通し等についての検討を行なった。 報告があり、全登山隊収支の決算見 次

> ②エベレスト登山隊収支決算書承認 ③対官庁関係に総事業終了報告書類 四九九、二三八円を以て公表する の件、対外的には収支金額一一〇、 ことをきめる。

④文部省に処分制限財産滅失届提出

⑥募金委員会解散の件 ⑤内地持戻り装備品の処分案検討の

⑨成田隊員傷害保険金交渉打切りの ⑧エベレスト写真集配付先検討の件 ⑦公式報告書出版方針検討の件

目の報告で詳しく説明することにす ⑩エベレスト登山事務所閉鎖の件 通り承認する。詳細については各項 上記各項目につき、いずれも原案

4)公式報告会

の年度末まで存続させることも再確認 あったが、他の小委員会と同様今年度 業終了に伴ない解散してはとの意見も なおエベレスト委員会は登山隊の事

# 帰国直後の公式行事

松方隊長以下三十七隊員は、六月二

なった。この後、シェルパのチョタレ (2)故成田隊員追悼会 て皇居内を参観した。 で天皇、皇后両陛下に帰国の報告を行 ー、ピンジューの二人も特別に許され 皇居を訪問、新宮殿北溜(きただまり)

隊員の遺影に献花し、その霊を慰さめ 時三十分、ホテル・ニューオータニに 生前の同隊員を偲ぶ追悼会が行なわれ おいて、ご遺族と隊員により、故成田 六月二十六日、十一時三十分~十1

(3)歓迎兼報告会

団体等約五〇〇名が出席し、盛大に行 会、毎日新聞社、NHK三社共催によ 会員関係の他に隊員留守家族、隊員勤 ニューオータニ芙蓉の間において、本 務先、寄贈先、協力業者、関係官庁、 る歓迎兼報告会が行なわれた。当日は 六月二十六日十四時より、ホテル・

撮影のカラー・スライドの上映が行な 報告が行なわれた。この後、木村隊員 の挨拶があり、松方隊長から全般的な NHK前田会長、毎日新聞社田中会長 坂田文相、タクール駐日ネパール大使 父宮妃殿下よりお言葉があり、続いて 山評議員、三田会長の挨拶のあと、秩 留守本部の本部長代理をつとめた村

出席のもと、テレビ公開報告会が行な 会の模様はビデオテープにおさめられ われた。(このNHKホールでの報告 レビで放映された。) 六月二十七日午後二時から、NHKテ ホールにおいて、松方隊長以下全隊員 ②九州地区 ①東京地区 六月二十六日、午後六時よりNHK

おいて、住吉、平林、渡部隊員により 九州地区の公式報告会を行なった。 ③北海道地区 七月二日、札幌市自治会館ホールに 七月一日、福岡市毎日会館ホールに

西地区の公式報告会を行なった。 て、大塚、松浦、神山三隊員による関 道地区の公式報告会を行なった。 七月六日、大阪市毎日ホールにおい

おいて、小西、植村両隊員による北海

七月七日、名古屋市の東別院におい 大塚、松浦両隊員により、 中京地

区の公式報告会を行なった。

共催によるものである。 は、本会、毎日新聞社、NHKの三社 5万博タイムカプセルヘエベレスト頂 なおこれら全国五地区の公式報告会 上の石の寄贈

住吉他四隊員、シェルパのチョタレー、 る他の収納物と共に松下館に展示され 訪れ、頂上の石が住吉隊員から松下館 ピンジューの両名が、万国博松下館を の苗加館長に手渡された。この石は二 セルに収納するため、六月二十八日、 十九日よりタイムカプセルに収められ エベレストの頂上の石をタイムカプ

# ネパール関係者招待

シェルパの同行は見送るようにとのこ れ了承された。 行して帰国した。この点については、 とであったが、連絡の行き違いから同 (1)シェルパの招待 七月の理事・評議員会で事情が説明さ 六月の理事・評議員会の決議では、

レスト登頂に貢献したシェルパのサー 京都・奈良見物の後、三十日富山に出 員との歓迎コムパ、二十六日は宮中参 五日夜、レストラン・ブリガンドで隊 案内で富士、湘南方面ドライブ、二十 共にしテレビ出演。二十二~二十三日 インストラクター、ナワン・ピンジュ ダー、チョタレーとインド登山学校の ~大阪、二十八日万博見物、二十九日 都内見物、二十四~二十五日は隊員の 内等公式行事に出席。二十七日、東京 ーの二名を、同行して帰国した。 両名は六月二十一日は登山隊と行を 登山隊は、帰国に際し、今回のエベ

二日夜、ネパール大使館におけるタク

七月一日立山に登った後、二日帰京。

ール大使主催による歓迎レセプション

て千寿ケ原の文部省登山研修所を視察

った後、八月七日まで滞在し、 テル、仙台等でホテル業の研修を行な は予定通り帰国した。 四日のインド航空機によりピンジュー に出席、三日ショッピングの後、 光開発株式会社の世話で、銀座日航ホ チョタレーは、その後、ヒマラヤ観 七月

ドライブの後、十九日のタイ航空機に パーティーに出席、十七日湘南方面を 日富士・箱根ドライブ、十六日本会ル 奈良の見学、十二日帰京、十三~十四 十二日迄、関西に滞在し、万博、京都 担して、招待することにした。 京間の往復旅費と十日間の滞在費を負 松方隊長の意見も入れて、バンコク東 った。そこでエベレスト委員会では、 も万国博を見たい」との申し越しがあ 倒を見て欲しい。自分としては是非と くが、それから先東京までの旅費の面 旬、タイ航空の招待でバンコクまで行 naya Guru Acharya) より「九月上 ヤ計画に終始協力したビナヤ氏 (Bi-ームにおいて、隊員を中心とする歓迎 ビナヤ氏は九月七日羽田着、九日~

C主催の歓迎会を行なった。カルマ氏 と中島隊員が接待を担当した。本会で 受け、十二月二日~七日まで加納隊員 ト隊が東海支部からバトン・タッチを 世話で名古屋を中心として滞在してい 両名は十一月二十九日まで東海支部の の両名を十一月上旬日本へ招待した。 Prasad Parajuli)とシェルパのカルマ ーの事務局長 パラジュリ氏 (Bharat 協力者としてヒマラヤン・ソサエティ たが、十一月三十日に、本会エベレス 本会東海支部では、マカルー登山の 十二月三日夜JA

月七日ソウルへ向け離日した。 会の招待により韓国航空機により十二 へ向け帰国。パラジュリ氏は韓国山岳 は翌四日のルフトハンザ機でネパール

ŋ,

### 覧 会

展

催した。 レスト登頂記念の大エベレスト展を開 本会では、左記により四ヵ所でエベ

○主催 ○協力 外務省、文部省、駐日ネパー パキスタン航空 ル王国大使館、日本山岳協会 本会、NHK、毎日新聞社

ンズ臨時通信員として、当会のヒマラ

マナスル以来、毎日新聞社のカトマ

(2)ビナヤ記者の招待 日のインド航空機で帰国した。

# ○開催日時並びに会場

8・7~12日(名古屋)名鉄百貨店 8·25~30日(大 阪)大丸百貨店 8 8 から来日中のヒラリー卿によりテープ SSSホールで開会式が行なわれ、折 月三十一日午後三時から、会場の七階 店においては、一般公開に先立って七 ンが行なわれた。(詳細については を切られ、引きつづき記念レセプショ 「山」三〇三号九ページ参照)。 尚東京地区の会場、池袋の西武百貨 15~23日(福 岡)岩田屋百貨店 ・1~12日(東京)西武百貨店

会長、大塚登攀隊長の挨拶の後、松浦 K制作の「エベレストへの道」三部作 が上映された。 て講演を行ない、引きつづいて、NH 隊員が「天と地の境に立って」と題し 接 する ファウンテンホールに おいて 「講演と映画の会」が開催され、三田 八月一日、午後一時半より会場に隣

(3)パラジュリ氏の歓迎

レット(頒価三〇〇円)が作成された。 なお展覧会を記念し、立派なパンフ

### テ レ ビ 放 映

度で放映されたが、帰国後、 今回の登山はNHKが後援した関係 ニュース番組等には、かなりの頻 取材班の

> 得た。そこでこの番組は七月九、十、 ールデン・タイムに放映され、好評を に分けて一九・三〇~二〇・〇〇のゴ 〇七月八日③「頂上に立つ」( 〃 〇七月七日②「氷河と闘う」( 〃

月二十七日午後に放映された。 くした6分番組「エベレスト」が十一 ト」が放映され、この番組を更に短か 総集編「ドキュメンタリー・エベレス 更に八月二十二日には、80分番組の

となり放送批評家賞(ギャラクシー期 間選賞)を受賞した。 のビッグスポーツ番組で、アドベンチ への道」三部作は、その後文部省特選 レスト登頂」が放映された。 ュア・シリーズの第一作として「エベ なおNHK制作になる「エベレスト

ドイツ語版が制作され、西ドイツのボ 万ドルで契約された。 レビには、「エベレストへの道」が一 ィルム・フェスティバル参加作品とし ーベルハウゼンのスポーツ・テレビフ て出品され、またアメリカのCBCテ 更に60分番組の「エベレスト」は、

### 記 録 映

10

25

8

支部・ 越後

8 12

> 都 市 市

台東区教委

の二本が、NHKより当会あて寄贈さ 録映画として編集プリントし、その中 もとに制作されたドキュメンター・エ NHKの取材班が撮影したフィルムを ベレスト全二巻、八〇分ものを16%記 た。この二本の映画フィルムは、 別項テレビ放映の項で説明した通り 会

> 11 11 11

県

11

14

福  $\equiv$ 東 見 静

井 重 京 付 岡

市

学校協会公 M教委・I B

11

14

清

水

市

連支教 部委

加納

びに小西隊員の説明によって上映され

のカラースライドが大塚登攀隊長なら

編集になる 記録 カラー・フィルムは ○七月六日①「三百㎞のキャラバン」 「エベレストへの道」という題名によ 次のように放映された。 (三〇分)

十一の三日間再放映された。 以上の三本は30分番組として三日間

るが、NETテレビでも七月二十六日 以上はすべてNHKによる番組であ 7 . 18 ある。 7 2 略する。

において別に定める。 ィルム貸出規定」については、 出しを行なうととになった。「映画フ 九~一五二号)会員ならびに一般に貸 の備品として登録し、登録NO・ 理事会 四四

### 方 演 会

派遣して行なった報告会は次の通りで 依頼を受けて公式に隊員を講師として 報告会が開催された。この中、本会が 月にかけて、NHK、毎日、本会支部 記録映画が完成したので、十月~十 後援(または主催)のもと各地で講演 九月末にNHK 製作になる16%の

身学校その他各地において各隊員によ る報告会が行なわれたが、ここでは省 なおこの他にも、隊員の勤務先、 出

7 . 29 10 8 (日時) 10 10 10 10 16 . 15 3 4 24 3 吉 名古屋市 富 米 高 〔場所〕 高 温松 岡 山 原 府 山 泉 本 子 市 市 市 市 市 町 市 市 ・県岳連教委・支部 ・県岳連部 課知県広報 支 部 ・ 富山 遭対協 会国 高体連 峡北高校 二上高校 信濃支部 山陰支部 (主催者) (講師) 大塚 平林 松田 植中村島

が行なわれた。 本会小集会の形で、 原宿の岸記念体育館大講堂において、 たので、九月三十日午後六時より東京 帰国後、隊員による検討会も終わっ あいさつ……… 全般報告…… 次の通りの報告会 山崎常務理事) 吉沢副会長

② 食 ① 装 この後で、東南稜ならびに南壁登攀 各係報告 登頂報告…… 登山報告…… 南壁登攀報告… 備..... 象………長田隊員 糧......土肥隊員 療………大森隊員 ·平野隊員 植村隊員 松方隊長 小西隊員 大塚登攀隊長

11 11 11 11 11 11 11 11 . . 17 16 . . 18 16 . 16 . 15 . . 15 15 山 秋 長 新 形 田 岡 潟 東京 浜 焼 松 津 喜多方市 市 市 都 市市 市 市 越後支部 クラブリ 市役所 秋田支部 山形支部 "

> 神神崎崎 藤田 藤田 加植納村

### 検 討 会

検討会を行ない、データーの整理を行 討会を左の通り行なった。 なっているが、登山隊としての公式検 医療班等学術調査関係は数回にわたり (1)南壁登攀についての検討会 帰国後八月下旬より、各係ならびに

(2)タクティックスについての検討会 八月二十三日、(本会会議室) 八月三日、(本会会議室)

会員への公式報告会

( 6 )

### 報告書等の出版 と編集状況

のものが刊行されている。 については、すでに毎日新聞社より次 (ロエベレスト登頂カラースライド **/ () 毎日グラフ (エベレスト登山特集** エベレスト登山隊の記録・報告書類

(ソエベレスト写真集 (45・11・30刊)

者は、事務局まで申し込まれたい。 上でお知らせしたが、いずれも本会で 付の豪華写真集である。 定価六、〇〇〇円、邦文、英文の説明 会員一割引で取次ぎしているので希望 エベレスト写真集は、オールカラー これらについてはその都度「山」誌 白エベレスト登頂記念絵はがき

登山に関係のある各国の山岳会宛、合 計五七部を贈呈した。 タリー、アルゼンチン等、エベレスト スイス、オーストリー、フランス、イ パイン・クラブ、アメリカ、ドイツ、 ヒマラヤ登山学校(ダージリン)、アル ヒマラヤ登山財団、スイス山岳財団、 ヒマラヤン・ソサエティー、インド・ 者、官庁関係、後援団体等の他、ネパ ール外務省、駐ネパール日本大使館、 下はじめ一〇〇万円以上の大口募金 本会では、この写真集を秩父宮妃殿 (3)ヒマラヤ登山における地球物理学的

(エベレスト委員会発行)と外部用(毎 公式報告書ができた時点で編集方針を 委員会を組織して、鋭意編集に当って 行の時期を三月末日に予定、目下編集 集をすすめている。前者については刊 日新聞社出版局発行)の二本立てで編 検討することにしている。本会内部用 編集委員会宛申込まれたい。(頒価未 数に限りがあるので、希望者は早目に の報告書はタイプオフセット印刷で部 いる。後者については、本会内部用の 公式報告書については、本会内部用

ル=平林がそれぞれ執筆、頂上パノラ 稿としては、アルパインジャーナル= 松方、アメリカン・アルパイン・ジャ 定なるも三、〇〇〇円見当になる予定) マ写真とともにエディター宛送付予定 ・ナル=大塚、ヒマラヤン・ジャーナ なお外国山岳会のジャーナル用の原

### 会発表 学術調査報告の学

(1)ヒマラヤ地方の高高度における環境

(2)高所における生体変動に関する研究 での氷河面での熱収支について」の象学会において「ヒマラヤ高山地域 テーマで発表の予定。 氷河調査」と題しての発表を行なっ 上隊員により「エベレスト周辺での 11月12日 日本雪氷学会において井 た。更に同隊員により明春の日本気

10月19日 第十回日本生気象学会にお 10月12日 第24回日本体力医学会で医 明年度の両学会に発表の予定。 化の様相」と題して発表。詳細は、 いて「エベレスト峰登山に於ける順 ける順化の様相」と題して発表。 療班により「エベレスト峰登山にお

重力測定結果」を発表の予定。 おいて「ネパール・ヒマラヤにおける 究」(仮称)ならびに日本測地学会に 測定とこれによる造山構造の測定と研 いて「エベレスト山体の岩石残留磁気 電気磁気学会および日本地震学会にお 河野隊員により明年五月の日本地球

### ならびに寄贈 登山装備品の保管

て四セットの装備品ならびに一般装備 エベレスト登山隊は、展示会用とし

> はかって、方針をきめ、更に十二月二 ①本会保管品……酸素補給器を含む登 のように処理することになった。 日開催の理事評議員会の了承を得て次 ては七月八日開催の理事・評議員会に 品を内地へ持戻った。 これら装備品のその後の処分につい ン・ケースに入れて保存する。 山隊装備一式は、本会にジュラルミ

(2)エベレスト登山記念の資料として次 は文書を以て理事会に申請されたい。 貸出規定を設け本会理事会で管理する (リストについては追って掲載の予定) ことにする。展示会等に出品希望の節 とれについては別途、保管ならびに 何富山文部省登山研修所資料室 分秩父宮スポーツ博物館 登山装備品一式を寄贈。 の四ヵ所の博物館又は資料室に各々

(日松本、日本民俗資料館 い大町山岳博物館

り、本会所蔵の絵画二点を委託出品しまし 朗評議員からの依頼により、松本市に新築 たので、この機会に会員各位にお知らせし ておきます。 された財団法人日本民俗資料館に左記の通 昭和四十三年四月、信濃支部、高山忠四

一、茨木猪之吉作品「富士山麓」(油A=55号)一、中村清太郎作品「白馬岳」(油A=50号)

に処分又は管理することにした。 文部大臣に届出、認可をえて、次の様 分制限財産に該当するものについては (3)その他装備品の処理 何医療装備品……光電比色計、レス **化大気放射計……京都大学防災研究** 国庫補助により購入した装備品で処 ピロメーター、電気伝導度計、P 所にて保管(井上隊員管理)

当は、 器具一式(購入価格約五〇万円相 Hメーター、血圧計、その他医療 本会医療小委員会管理の

念品の受贈

②エベレストの模型 NO·一四四号)保存することにした。 録し、末永く保存することにした。

願いすることにしたい。 使われたが、これは、記念として秩父 の一の模型を作成し、南壁の研究用に 宮スポーツ博物館に寄贈して保管をお 備委員の大森弘一郎氏が六、二五〇分

会では、これを会の備品として登録し じて寄贈された。 し、毎日新聞ヒマラヤ登山事務局を通実体模型(ガラス箱入)が、本会に対 (登録NO・一四五号)保存することに 〇、〇〇〇分の一のMT. EVEREST 後、製図業の高野橋康氏の作になる四 (大エベレスト展にも展示された) 本 これとは別に、登山隊が帰国した直

リオンの建設に種々協力したが ③万博ネパール・パビリオン記念写真 本会では、万国博のネパール・パビ ~ (1)

315.

**好その他の持戻り露営用具、登攀用** もと辰沼医院にて保管する。 具、酸素補給器、気象観測用具等は 有効に活用してもらうこととした すべて文部省登山研修所に寄贈、

# エベレスト登山記

を額に収め、備品として登録し(登録 ベレスト隊に贈られた。本会ではこれ ことを決めた由でその第一号が本会エ 労のあった登山隊に「Scroll」を贈る tionでは、インド隊のエベレスト登頂 は、これら記念品を会の備品として登 品が、本会に対し寄贈された。本会で を記念し、今後エベレストに登山し功 ①印度山岳財団からの Scroll (賞状) Indian Mountaineering Founda-エベレスト登山を記念し、次の記念

本会でも登山隊派遣準備期間中、準

313. 312.311 308. 310. 307. 〔登録NO・〕 〔品 両開き書庫 (H-6型) 二号両袖机(NDR-321-A)|台 名

リオンの記念アルバムが寄贈された。 し(登録NO・一四六号)資料室に保 本会では、本品も会の備品として登録 パール王国大使館よりネパール・パビ 二九八号五頁参照)、 これに対し、ネ

④パシュパティナートの模型とTAR 号)資料室にて保存することにした。 された。本会ではこれも備品として登 ネパール体協会長として尽力した)よ で現 Cottage Industry Dept. の所長 の一人クリシュナ・バハドゥール・ベ ナスル当時から当会と交流のあるネパ 録し(登録NO・一四七号及び一四八 り、標記二つの記念品が、本会に寄贈 マナスル踏査隊の入国許可取得の際、 ルマ氏(ラム・バハドゥール氏の実兄 存することにした。 A (Mother of Budha) 女神像 ルの友人と旧交を暖めてきたが、そ エベレスト登山隊はカトマンズでマ

# 什器備品類の移管

帳に登録されましたので報告します。 什器備品として移管され、固定資産台 価格総額二七四、〇〇〇円)が、本会 し、使用していた左記什器備品(取得 エベレスト登山隊事務所の閉鎖に伴 エベレスト委員会が事務費で購入

スター付)スチール黒板(両面キャー一台引違い書庫(JIS三号)一組引違い書庫(JIS三号)上下 四段ファイリングキャビ スター付) スチール黒板(両面キャ 電動鉛筆削(KP―5型) 手提金庫(ベル付シルバー)一台 二台 一台 一台

肱付回転椅子 (C-3233)

事務用回転椅子 (C-3211)

一台

七号片袖机(NDR-701-A)一台

コピア複写機 (R-68 II 型)一台

会の通常会計とは区分し、

エベレスト

ベレスト登山隊に要した費用は、

### 工 べ V ス 1 登 山 会計報

ベレスト委員会

#### エベレスト登山特別会計報告書 (別表①) 昭和45年11月30日現在

貸	方	借	方
(エベレスト登山会計) 国 庫 補 助 金 目 治 体 補 助 金 毎 日 新 聞 社 後 援 金 N H K 後 援 金 雑 収 入 一 般 募 金 収 入 日本山 岳会負担金(1)	8,800,000 7,000,000 19,000,000 20,000,000 2,781,168 43,368,600 11,334,311	登山 隊 費事 務 費	97,279,449 8,537,104 1,222,276 3,159.409 3,000,000
計	110,499,238	計	110,499.238
(エベレスト関連会計) 日本山岳会負担金(ロ)	4,164,447	万 博 費 会 今後発生する残務処理費 (見 込) 余 剰 金 (見 込)	1,333,750 1,300,000 1,530,679
計	4,164,447	計	4,164,447
合 計	114,663,685	合 計	114,663,685

〔備考〕・日本山岳会負担金 (イ)+(ロ)=15,489,758

会員募金 4,713,917 隊員負担金 9,000,000 エベレスト関連雑収 1,784,841

・余剰金は年度末をもって一般会計繰り入れ、またはエペレスト基金として別勘定として計上する (注)山 305号に掲載の9月30日現在の残高試算表の数字は、その後若干の勘定科目の組替を行なった。 この中の大きなものは、毎日新聞社後援金3,000万円中より1,100万円を募金収入に組替え、支出 の項では雑費より募金費への組替である。

#### エベレスト登山隊収支報告書 (別表②)

昭和45年11月30日現在

1. 収

入

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減	説 明
国庫補助金	8,500,000	8,800,000	300,000	文部省国際スポー ツ振興助成金
自治体助成金				
東京都	0	2,000,000	2,000,000	エペレスト登山補助金
大 阪 府	0	1,000,000	1,000,000	"
愛 知 県	. 0	1,000.000	1,000,000	学術振興補助金
神戸市	0	1,000,000	1,000,000	エペレスト登山補助金
大 阪 市	0	1,000,000	1,000,000	<i>"</i>
_横浜_市	0	1,000 000	1,000,000	"
日本山岳会 負担 X H K	11,500,000	11,334,311	4165,689	
NHK	20,000,000	20,000,000	0	報道関係後援金
毎日新聞	30,000,000	19,000,000	411,000,000	)
一般募金	30,000,000	43,368,600	13,368,600	大蔵省指定特定寄 付金
雑 収 入	0	996,327	2,781,168	1.7.25
計	100,000,000	110,499,238	10,499,238	

(注1) 本表に記入されて いる予算額は昭和44年4月 作成の当初予算であるがそ の後数回に亘り実施予算と して組替えられた。

(注2) 每日新聞社後援金 30,000.000の中11,000.000 は毎日新聞社で行なった募 金であるため,一般募金に 組替を行なった。

後援団体等に対し、事業総収支報告書 会計の二本立で処理する方針にした。 整理費を支出する見込みである。 後年度末までに一三〇万円程度の残務 を行なうことにした。 を以てエベレスト登山会計の収支決算 を提出する必要があるので、 なおエベレスト関連会計として、 エベレスト委員会としてはこの余剰 方官庁関係、地方自治体ならびに 十一月末 今

する方針で(「山」三〇〇号 一一頁参

検討の結果、エベレスト特別会計を、 めることができない事情もあり、種々 助金との関係があって登山隊会計に含 照)あったが、万博関係費用等は、補 として、収支両立てとして計上、処理 特別会計(エベレスト登山関係収支)

エベレスト登山関係とエベレスト関連

れたい。 項、エベレスト登山募金報告を参照さ 表③「隊別支出決算内訳表」を参照さ 決算書」各隊別の支出については、別 なお募金関係の報告については、

ては、別表②「エベレスト登山隊収支 エベレスト登山会計の収支決算につい 意向である。 連会計との関係については、 「エベレスト登山特別会計報告書」を、連会計との 関係に ついては、 別表 ① 金を、エベレスト基金として残したい エベレスト登山会計とエベレスト関

隊別支出決算内訳表 (別表③)

昭和45年11月30日現在

(単位:円)

	科目	第一次隊	第二次隊	本 隊	事 務 質 夢 金 費	計 .
,	科   交現装食酸貨医観梱写土保雑科   交現装食酸貨医観梱写土保雑	803,100 1,391,733 2,403,028 204,395 0 645,871 21,908 130,960 39,275 0 24,000 28,812	2,491 724 6,869,285 3,575,395 926,065 2,596,640 1,381,540 0 695,740 87,840 0 80,820	6,833,320 19,307,674 18,160,141 3,391,584 12,819,490 2,856,498 675,255 1,611,535 1,935,458 146,892 303,999	0 0 0 0 0 0 0	10,128,144 27,568,692 24,138,564 4,522,044 15,416,130 4,883,909 697,163 2,438,235 2,062,573 146,892 408,819 1,093,215
	代費費費費金 所務金用 学 故 学 故 計	19,041 0 0 0 0	0 0 0 0 0	1,057,028 3,159 409 0 0 3,000,000	8,537,104 1,222,276	1,095,215 1,076,069 3,159,409 8,537,104 1,222,276 3,000,000

2. 支 出 (単:位円)

項目	予 算 額	決 算 額	増 減	增減内容説明
交 通 費	8,303,400	10,128,144	1,824,744	隊員増加による
現 地 費	24,120,000	27,568,692	3,448,692	"
装 備 智	18,000,000	24,138,564	6,138,564	"
食糧費			43,997,956	寄贈品多いため
酸素装備費			916,130	
貨物輸送費	1			物資を空輸したた め増加
医 療 瞿	1,500,000	697 193	4802,837	現物寄付による
観測通信費	4,600,000	2,438,235		"
梱 包 瞿				
写真撮影豐	600,000	146,892		現物寄贈による
土産品代	500,000	408,8,9	△91,181	70 00 1700
土産品代保険米	800.000	1,093,215		隊員増加による
雑			41,580,531	14.74 14.00
科学研究費				
事務豊				
募 金 瞿		1,222,276		
事故弔慰金	0	3,000,000	3,000,000	
計	100,000,000	110,499,238	10,499,228	

(注) 隊別の支出内訳については別表3参照

する研究』昭和45	五〇	富士通(株)	=	力二五	賀	_ 室		ー ナナロー	1	41	滝	-	ーガローの		
(7岁日武者『高月圣山多が・食料なり	E	用な電彩(杜)	((;;			 E オ		777	< 1 t		i		7 - (		
1) 定日代著『奇斤を日支精・定量に見	EL C	泰言電泉(朱)	一〇島	=======================================	<b>井</b>	- 寸	_	- たれこう			高		<u>П</u>		
	五〇	日立電線(株)	=	三三五	田峠	陸			行				五五二十		
(山溪新書4)山と溪谷社 昭和45	-,	(株) 日立製作所	=	五七五八	木靖	宮		三七六十			釺		三三六九		
①飯田睦治郎著『日本の山岳気象』	1100	バイオニア(株)	0	一二五九	野	水	. /	五五三九	恭一郎		針針		匹五〇七	昭二二	池田田
飯田睦治郎氏寄贈			=	三〇九八	Ц	丸		プロセー	-		T		二八匹力		
山と溪谷社 昭和46		日本製料(材)	Ξ.	T (E	] ]	. 7		73.7			ţ				
メートルへの挑戦』(山溪新書3)		日本製労(朱)	Ξ - Ξ	五七三四	野 复	t i		六五九四			<b></b>	= -	四二九		
(19月)	E. C.	日本建铁(朱)	E.	六四六五	義			大〇六1			佐	л. —	三四	清彦	<b>茂</b> 野
)で「完全学のエンス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1, 100	日本建設業団体連合会					10	一六三〇	_		佐	<u>ル</u> 一	五八一十		明石
湯12名第13名本名場 BF4	000	浪花電鉄協会	=	四九二二	井隆		_ _	二七六一	一栄	藤	佐	=	七九二	健三	<b>米飯原</b>
易之谷郎。易之谷寸交易 四日5	五.	七洋電機(株)	C	九一〇	木信			六六四二			佐			行	あ
1)星导密节呢扁『城菱国無召邯늋申午一个》	1,000	(株)	· -	プロナニ	; ; ; ; ;				高美		佐人			1	
尹會剛三夭寄贈		ナンョナレ電去瓦工業	- Ξ		‡ L		· /	フニイー			三柱	マ 募金口数	会員番号	名	氏
昭和45	九匹七	東京医薬品協会	= -	リュニア ロロフ イ	山蜂谷人	FF	_	ミヨグヨ	医石	‡ 7	关 乜		NA.	THE THE	ZY.
1)日本山書の会編『山と人・山岳』	i ±	東京急行電鉄(株)		ユニトコ	子里 E 考	, - = 5		ニニナコ			交方		A H		
日本山書の会寄館		(树)東急百貨店	- (	丘した	子 屯 一	٦.			与行		<b>T</b>	ます。	を感謝致し	るど協力	に対する
昭和15:	= =	東京日前に	<u> </u>	四一四六	ト 田	三 三			1			におたる募金委員会	確認した。長期間におたる募金家	長期	作記した
ルム登山史』(ヒマラヤ名著全集12)	5	東急 <b>建</b> 投へ朱ン	_	五一二九		伴	<u>u</u>	四四九七	Ξ		近	重ないで、近月一つには近にあれて、現金委員会を解散することを	見会を解告	夏金罗	はおもっ
⑴ダイネッリ著・河島英昭訳『カラコ		た 行	=	六一六五		林	_	四九四	清	内	河	を行えてい	ライK と写文	真包的	かつせる
あかね書房寄贈	0	十条製紙(株)	_	六二三一	川禎	早		二八六二	者 男		久	で対する。幸	号方去等具本内事頁の確認とJJよりを持ちます。 それのでおこしており	本有	计方法实
昭和45	=	昭和電線電纜(株)		五一四八	田文	浜		五六七二	一世		. 清	る矣災、艮	きさってい	コ。今後	<b>身金股</b> 土
域・ヒンズー・クシュの山旅―』		さ行	=	六五四四	Œ						5 片	提出。東京都条令に基く、都印事への	令に基く、	光京都条	是出。由
①青柳健著『玄奘三蔵の道を歩く―西	一、〇五三	大阪医薬品協会	_	ガ五七七	本			だこつせ	正 記		± J	支援告書の	の総事業収	是寄付	対すると
芙蓉書房寄贈					× は 行			たこうと	忠海	ЕД	<u>4</u>	大蔵省主税局に			金事務農
図書受入報告	3	1	-	E	i fi		ī E		三 章			の権忍。原	叩ら募金預の崔忍。	こしたい	丁ないました。
	<b>募金コ</b> 数	会社名・氏名		立つこう	言名							長冬催忍を	募金男系の	心の通り	し、左
図書室便り開始記		【一般募金】	- :	三九八九	島富三郎	野		10六八	一 :	野」		議室において、最終募金委員会を開催	最終募金委	おいて、	議室によ
		:	= .	五八六八	妻		<u></u>	1110				時、本会会	後六時~八	一一日午	二月二十
	に感謝いた	りまとめいただいた各支部に感謝いた	=	五一〇六	沼真澄	長/			1 J			会では、十	山募金委員	レスト登	エベン
烝 —	き種々おと	なお、支部員の募金につき種々おと	五.		キングクラブ	、長		六ーコ		野			参照)	一九九号	の ② = 1
内 茂 (追加			_	四八五九	真	長	<u></u>	五三七	伊一			(その①=「山」二九七号、そ	三山二	(その①	ます。
谷 口 富士子   一〇	し 七 七 七	发 i 支 i	=	四三六	清	永		二七八十			大	報告いたし	をあわせご	での③)	明細(と
個 人		部:	=	一二四七	健			六六二	雄	西	大	お、四月十日以降に入金した分の	日以降に入	四月十	なお、
横浜ゴム(株) 二〇〇		(宮 城 支 部)  五二八四	_	五八九四	村恒明	-		一八九十	敬		太	(十一月三十日現在)	(十一月三		
	0	2林 啓	_	三三七二	彰			五八七元	条	塩	: 大	八六〇〇円	三、三六八、七	匹	一般募合
三菱地所(株)		わ行	C	四四六〇	伊			五二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二	fi	+	KE	一、九一七円	四、七二三		会員募金合計
(株)	_	П			行		_		月三郎		7 .			9.	おりです。
-			_	匹六〇九	质				1 点		; 氏	募金集計結果は次のと	募金集計結	ございました。.	こざいま
(株)    (株)	_	路岳夫一六	• =	ーボー五	] 傾			ニナー	まり		・ス	一々ご厚配いただき、ありがとう	いただき、	べご厚配	は、種々
)	Ξ	浦源太郎	: —	五〇五三	Ė			四〇三匹	引夫		、入	対しまして	スト登山に	のエベレ	今回の
ま行		川茂	_	四六六七			_	二九一	久之助		. 今	金委員会	レスト登山募金委員	ベレス・	工
本州製紙(株) 三〇〇		行	0	五八九七	部節雄	丹	74	六二三九	祐道	藤女	伊		(その③)	報告	募金
堀田テント(株) 五	0	森 田 茂 五一四五	_	五三八〇	八	建		五七二	尤男		_		エベレスト登山	レスし	エベ
the death of the second										The second second	- Charles and the Control of the Con			-	-

①広島山の会『山毛欅林』 No. 166~ ⑴行方沼東著『羊歯帯』 ①一九七〇中央ネパール踏査隊『小さ 関田美智子氏寄贈 以行方沼東氏御遺族寄贈 定期刊行物受入報告 会 昭和41 〔部報・会報〕 な旅の記録』 昭和45 日本シダの

### ②『北海道自然保護協会会報』 No. 9 $169 (45-7\sim10)$

(4)兵庫県山岳連盟『兵庫山岳』No. 43 (3)『北海道自然保護協会会誌』 (45-12)No. 8

⑥京都山岳会『京都山岳』 No. 547, (5)国立公園協会『国立公園』 No. 252 (45-12)(45-12)

8日本自然保護協会『自然保護』No 100, 101 (45-9, 10)  $(1969-9\sim1970-9)$  (7)『札幌医科大学山岳部季報』No. 14

548 (45-11, 12) (50 周年記念号)

10日本山岳会東海支部『東海支部報』 山『東京学芸大学山岳部部報』 No. 7 (9) 『都岳連通信』45年度3号(45-12) No. 10 (45-11)

(2)日本山岳協会『登山月報』 (45-12)(45-10)No. 21

岡日本登山協会『山と雪』 No. 152 (54-12)

P · S · 19

(1)『アルプ』 No. 154, 155 (45-12,

②『岳人』No. 283 (46-1)

(5) (3)『山と雪』No. 388 (46-1) 『岩と雪』No. 19 (45-12) [HIKER] No. 183 (46-1)

⑴日本山岳協会『山岳手帳 '71』

③札幌山の会 『大雪・ 十勝縦走記録②日本山岳会『山日記一九七一年版』

### Journals Arrived in December 1970

"Die Alpen" No. 10, November "Appalachia bulletin" Vol. 36

No. 10. October 1970. Heft 10, 11. Oktober, November Der Begsteiger" Jahrgang 37,

"Mountain" No. 12, November "The Himalayan Journal" Vol.

5 4.

ein. Mitteilugen" Jahrgang 25, "Österreichischen Alpenver-"The Mountain World" 1968,

Heft 9/10. Sept./Oct. 1970. "Panorama of Slovakia" 1970-

"Senderos" No. 142. Oktober

### 洋書受入報告

Vincenzo dal Blanco 氏寄贈

Tamari, 1970. Moiazza" (Itinerari Alpini 4) Giovanni Angelini Vincenzo Blanco "Civetta-80

のか、数えればわかることでしょうが 印象しか与えないものが、何秒、ある 目とかといった区切りには漠然とした 時というのは怪物で、何度目とか何年 度目かを迎えていることになります。 不思議なことに春も夏も秋も同じく何 市が何度目の冬を過ごそうとしている しくお願いいたします。東京という都 何年にもいや数で表わすことは不孫な いは何分、客観的に極く小さなものが おめでとうございます。本年もよろ

せん。(東)ほどの内容を持つことが稀ではありま

### 会 務 報

## 月理事評議員会

原監事 織内、金坂、村山各評議員、今井、小 山崎、丹部、野上、神原、松永、宮下 >出席者 吉沢、深田副会長、藤井、 大森、小倉、中屋各理事、中田、折井 (13日午後六時本会ルーム)

▽議事

(山崎)

ベレストも無事に終わったので、こと ・エベレスト国際隊の件 しは神河内山荘の年としてやりたい。 ブ・ヒュッテがないのはおかしい。エ を持っている。JACに本格的なクラ ・年頭のあいさつ 世界各国の山岳会では立派な山小舎

聞社に連絡を依頼した。急を要するた は昨年暮山岳同志会の隊と共にグラン 帰国して事情を聴取したいむね毎日新 小西の足の凍傷はひどく、植村に即刻 隊への参加が危ぶまれている。とくに 傷を受け、現時点ではエベレスト国際 ド・ジョラス北壁を登り、手、足に凍 め今後の措置は常務理事会に一任して

トマンズ発、第二陣は三月九日カトマ 五日カトマンズ集合、二月二十五日カ と会い、植村帰国を依頼、二人は一月 ンズ集合、チャーター機で三月二十一 したい。なお国際隊は第一陣が二月十 人の帰国をまち今後の会の方針を決定 確認してきている。いずれにしても二 レンファース隊長と会見、行動予定を 十七日帰国する。植村はスイスでディ ・小西、植村氏帰国の件 一月十一日毎日事業部長、 運動部長 (吉沢)

た西側を登り、西山稜隊がこれをサポ 日BC集合、 南西壁は日本隊のねらっ

# 告

本会から推薦した小西、植村の二人 (藤井) ・四十六年度会員総会の件

もらいたい。この件了承。

日国際文化会館で日ネ協会と共催で開 ことになったので歓送迎会を一月十二 ・学生部の件 し、その後任に根本博大使が就任する ·海外連絡 このほどネパールの吉良大使が辞任 (宮下)

しい広告をのせたいので協力をお願い 関東学生山岳連盟を結成する。 すすめているが、その前提として近く ・山岳広告の件 山岳六十五年は目下編集中だが、新 全日本学生山岳連盟の日山協加盟を

・神河内山荘の件 山荘募金のアウトラインを作ってい

財務面を決済した。これをもってエベ レスト募金委員会はその任務を終了し ・エベレスト募金委員会の件(村山 十二月二十一日募金委員会を開き、

したいので適当なものがいたら紹介し 制を検討したい。 てほしい。またエベレスト隊員の当番 の会本来の業務に支障ないようにした い。このためアルバイト要員の雇傭を ・エベレスト残務処理の件 残務整理を即急に行ない、事務局員

・ネパール大使館山岳関係世話係りの (日)とする。 (土)とし、支部長会議は四月十八日 四十六年度 会員 総会は 四月 十七日 カトマンズの日本大使館で山岳関係

▽報告 らいたい。 担当者を世話してほしいむね要望があ った。緊急に適当な人員を紹介しても

氏に依頼した。 ・小集会の件 三月十日阪大ピーク29の報告を住吉

12 日 9 日 八九三 **4** 日 2日(水)理事評議員会 · 一一逝去 ・一逝去 六九三 永原輝雄 ルーム日誌 (45年12月) 藤木九三

3日(木)パラジュリ氏並にカルマ氏 (水) エベレスト委員会 (金)登山技術講習会反省会 (土) 第三回支部長会議 歓迎会

第二六六回小集会 四十五年度年次晚餐会 マツヤサロン) 缶会北中南米一七ケ国踏沓 京都山 分於

編集代表

日

(水)

とアンデス登山隊ペルーの

田

刷所

株式会社

技

報

東京都港区赤坂一丁目三番六号

振替口座東京四八二九番

293

t 崎

四 安

四

昭和四十六年二月十日発行 発行所 三一二三 向 井 ビ ル東京都千代田区神田錦町 法社 人団 日本山 岳 会

駒山、ゆばま泊。23日鬼こうべ経由鳴 の原稿のため沢山の原稿が 残りまし 仙台市博物館集会、駒の湯泊。23日栗 た。三月号に載せます。 子温泉。一般会員の参加を歓迎します。 あとがき エベレスト残務処理関係 現地支部長会議日程 5月22日12 (山崎)

昭和四五・一二 昭和四五・一二 故

者

ラヤの事情に通じていること。 申込み下さい。 山岳会事務局まで履歴書を添えお 次の通りで、希望者は大至急日本 身赴任出来る三十歳以下の男子。 ・英語に堪能で、ネパール・ヒ ひと通りの登山技術を持ち、単

館登山世話係り ネパール 大使

23日(水) 忘年会 22日(火)山荘対策委員会 十二月中来室者 三五九名 年末29日30日31日休館 (月) エベレスト募金委員会 19 17

日日

(土) ネパール研究の集い日 (木) 平井吉子さん送別会

・ネ

佐々木徹氏

# 求む、

登山世話係り一名を求めておりま す。任期は二、三年です。条件は カトマンズのネパール大使館

本御引受け☆ 号~300号)金700円也 報製本御引 ☆ 製本代 け 別 受 金 120 円也 定

5·文京区水道2~15, 電話(943)0311(代表) 5·都島区相生町7, 電話(352)3491(代表) 5·昭和区雪見町1~15, 電話(731)7331(代表) 工場:大阪工場(堺市),東京工場(戸田町) 東 京 店 大 阪 店 名古屋店

背文字その他については往復はがきで 日本山岳会内「会報委員会」に御相談下さい◀

### 山岳保険に入りましよう!!

- ●貯蓄にもなります。
- ●万一の場合にはひとの迷惑を軽減します。

御相談は

### 日本団体生命

角筈支部 (専門取扱営業所) 東京都新宿区角筈1の 844 新光ビル内 電話 (352) 1556・1557

### 茗溪堂一山の本

東京都千代田区神田駿河台2の1·Tel(291)9442振替東京24723

### 森林·草原·氷河

加藤泰安著

〈A5判482頁〉定価1,500円

#### すこし昔の話

初見一雄著

〈四六判400頁〉定価1,200円

### 遠い山・近い山

望月達夫著

〈B6判334頁〉定価960円

### 山の古典と共に

大島堅造著

### 〈四六判280頁〉定価1,500円

雪山·藪山 <sup>川崎精雄著</sup>

〈A5変型判340頁〉定価1,200円

### 雪原の足あと

坂本直行著

〈B5判206頁〉定価2,800円

40年のキャリアをもつ編集と内容。 赤いカバーでおなじみの…………

### 山日記 1971年版

日本山岳会編

〈A6判400頁〉定価750円

山 岳 64年 2,000円 63年 2,200円 日本山岳会編 61年 1,800円 〈A 5 判〉60年 1,500円

### 国立公園カレンダー 国立公園協会編

〈A 5 判リング綴リ〉定価960円

### 屋久島・美しい豊かな自然 赤星 昌編

〈B6判202頁〉定価480円

### 山で唄う歌1集・2集 戸野昭・朝倉宏編

〈A6判126頁〉I集240円·2集280円

#### 山に忘れたパイプ <sup>藤島敏男著</sup>

〈菊判584頁〉定価2,500円

#### 日本の山旅

足立源一郎スケッチ帖 〈A変型208頁〉定価3,600円

#### アンナプルナ日記

京都大学学士山岳会編 〈A12取変型判170頁〉定価1,200円

#### 登頂ゴジュンバ・カン 高橋 進編

〈A5判350頁〉定価900円

### キンヤンキッシュ1965

東京大学カラコルム遠征隊編 〈B5変型判220頁〉定価3,000円

#### 南極新聞1956~7年 <sup>南極研究会編</sup>

〈B5判横トジ〉定価600円

### 登山・スキー用具専門店

大阪市北区梅ケ枝町101

TEL. 06(362)5736

### ●買い易い 山の店

### 山の店

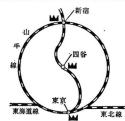
・北へ来たら山の店

●フレッシュな 山の店

### 山とスキーの専門店

### 片 桐

東京都文京区協島 3 丁目 38-9 片桐 盛之助 電話 東京(831) 1794・6680番



四 谷 店 東京都新宿区三栄町三番地 TEL (351) 7432·1912 八重洲口店 東京都中央区八重洲二の五 TEL (271) 1560·8575

新宿店 新宿ステーションビル四階 サービスショップ TEL (352) 6564

日本信販加盟店

INSTANTALL.

山友社をかはこ

特にない方がいいけれども、どうしても少なですからったこう人間ですからっても少要なものをここうえても少要なものをここうえてたる

かたる("シンテイ でんり 281~8456 中央区・八重スチの1

秀山莊

登山とスキー具



東京都中央区日本橋通2-1 PHON; 271-7686·1718

